

# 公民科学習指導案

——「生徒の学習活動」の工夫に着目して——

鈴木 そよ子

## はじめに

高等学校の公民科では、終始、教師が説明をする授業になりがちである。実際には現在の生徒たちの生活やこれからの社会生活と密接な関係のある学習内容であるにもかかわらず、生徒たちは学習内容を、教科書のなかの事柄、あるいは、すでに確立されていて自分たちは受け入れるしかない事柄と捉えている場合も多い。

生徒たちが学習内容を自分の生活とかかわりの深いものだと理解できるようになるために、どのような工夫をすればよいだろうか。本稿では、この問題を学習指導案レベルで検討したい。

学習指導案の項目を、基本的な学習指導案の例でみると、横の欄は、「指導内容」「生徒の学習

活動」「指導上の留意点」に分けられる。また、縦の欄は「導入」「展開」「まとめ」に区分される。学習指導案の「指導内容」は教科書に沿ってほぼ確定しているものと見て、「生徒の学習活動」に手を加えることによって、生徒が学習内容を自分の身近な問題として捉えられるために、どのような工夫ができるかを、指導案2例に即して述べる。

本稿で資料とする学習指導案は本学の学生が、教育実習における研究授業のために作成したものである。

## 1 「政治・経済」学習指導案

まず、最初の検討対象とする学習指導案は資料1「公民科『政治・経済』学習指導案」である。

## 資料1 「公民科『政治・経済』学習指導案」

公民科「政治・経済」学習指導案

指導教諭 ○○○○

教育実習生 △△△

1. 日時 2006年6月15日(木) 第4校時
2. 指導学級 3年5組
3. 指導教科書 『政治・経済』実教出版
4. 単元名 金融と財政の役割
5. 単元の目標 信用創造などの金融を学ぶ上で基本事項を理解するとともに、金融政策・財政政策は何を目的に行われているのか理解する。また、政府の税金の仕組み、歳入・歳出を学び、わが国の財政の課題は何か考える。

6. 単元の指導計画      5 時間
- |               |     |         |
|---------------|-----|---------|
| (1) 中央銀行の働き   | }   | 1 時間    |
| (2) 金融と金融機関   |     |         |
| (3) 銀行業務と信用創造 |     |         |
| (4) 金融政策の役割   | ⋯⋯⋯ | 1 時間    |
| (5) 財政の意味     | }   | 1 時間    |
| (6) 財政政策の役割   |     |         |
| (7) 予算と財政投融资  | ⋯⋯⋯ | 1 時間    |
| (8) 税金の種類と特徴  | }   | 1 時間…本時 |
| (9) 歳入・歳出と国債  |     |         |

7. 本時の目標
- ・税金の種類と、直間比率の内訳を学ぶ。
  - ・歳入と歳出における国債の関係を学ぶ。
  - ・日本の財政の現状を学ぶ。
  - ・財政法を通して国債の種類と用途を学ぶ。

8. 本時の評価法
- ・税金の種類と使われ方、内訳を知ることができたか。
  - ・歳入・歳出の用途がわかったか。
  - ・日本の国債発行残高を知り、日本の財政現状がわかったか。

9. 本時の展開

過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	「税金を納めている自覚があるか？」 という発問をして、本時行う税金と 財政についての関心を持たせる。	発問に対して答えさせる。	指名して答えさせる。
展開 (40分)	<p>1. 税金の種類と特徴 直接税と間接税の意味を説明し、直間比率の内訳を教える。</p> <p>2. 歳入と歳出と国債 (1) 歳入と歳出 まず、歳入・歳出をプリントを使い確認する。 先ほど学んだ税金収入が歳入においてどの程度なのかを説明し、残りを国債で賄っているということを学ぶ。 歳出においては、3つの歳出項目を中心に説明する。</p>	<p>補助プリントの空欄に記入させる。 また、口頭の説明でも重要な部分はメモさせる。</p> <p>補助プリントの空欄に記入させる。 歳出において「社会保障とは?」、 「歳出の2番目に多いのは何か?」 という発問に答えさせる。 社会保障・国債費・地域財政の歳出3項目を、プリントを使い理解させる。</p>	<p>生徒の反応を見ながら、説明が早くなりすぎないように心がける。</p> <p>項目ごとに少しの間を取って、生徒の理解を促し、確認する。</p> <p>発問は、複数の生徒に問いかけ、生徒の集中を保つと共に、考えさせる。</p>

	<p>(2) 国債依存度 歳入・歳出の話から、実際にどの程度、財政が国債に依存をしてきているのかと、それがいつから増えたのかを、国債依存度のグラフを読み取らせながら理解させる。</p> <p>(3) 国債 日本の財政に対する国債依存度から現状が危機的状況であることを考えさせる。 財政法を読み、その内容の把握と、2種類の国債を教える。</p>	<p>グラフに意識を集中させ、変化する98年度を境に、その前後の違いをしっかりと読み取らせる。バブルを境に依存し始めたということを知る。また、説明の過程で板書を写させる。</p> <p>補助プリントの空欄に記入させる。「日本の国債依存度はどのくらいあるか?」という発問をする。財政法の条文を読ませる。</p>	<p>考えさせる。</p> <p>グラフは、今どこを見ているのかを何度か確認して、ついてこれない生徒がいないようにする。</p> <p>板書は色分けをし、視覚的にも理解できるように工夫する。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>今日の内容がわかったかを確認すると共に、自分たちの税金の使われ方と、国債依存度を通じて財政への関心を高める。</p>	<p>全体を通して、わからないことがあれば質問を受け付ける。</p>	

政治・経済 授業プリント4

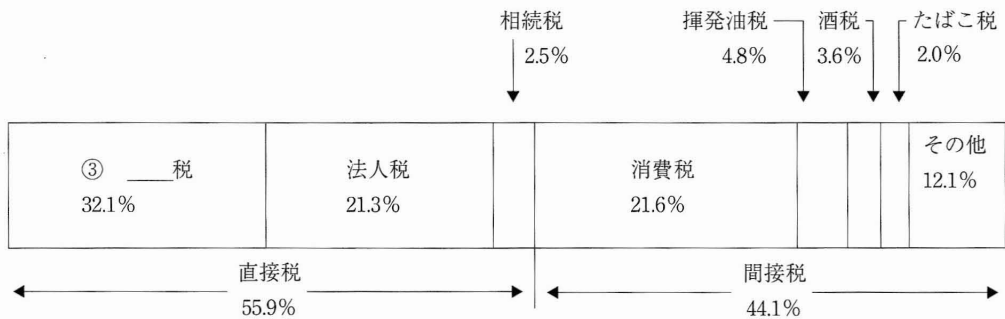
教育実習生 △△△

<⑤金融と財政と役割> 教科書 P97 ~

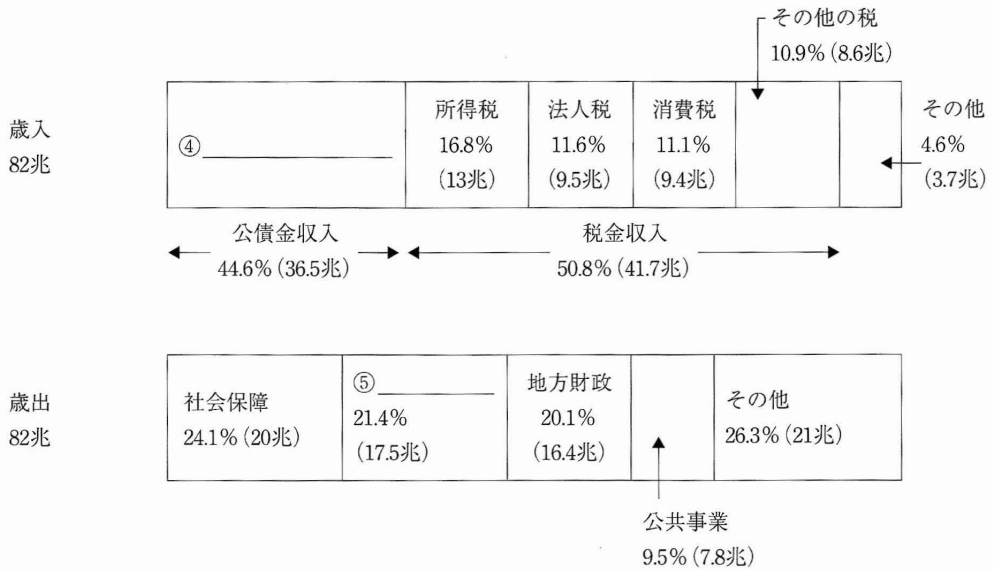
1. 税金の種類と特徴

- ① \_\_\_\_\_・・・納税者と負担者が異なる税金。消費税、酒税など。
- ② \_\_\_\_\_・・・納税者と負担者が同じ税金。所得税など。

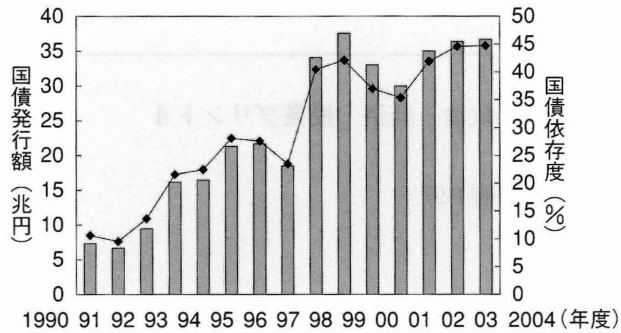
<直間比率の内訳(2004年度)>



3. 歳入と歳出と国債



(2) 国債依存度・・・歳入に占める公債費の割合のこと



(3) 国債

\*日本の借金総額

⑥ \_\_\_\_\_ 円 …… これは国民一人当たり⑦ \_\_\_\_\_ 円借金していることになる。)



日本人の貯蓄が⑧ \_\_\_\_\_ あるから借金している。

→いざって時は、国は国民の資産で借金を返そうとしている!!

＜財政法＞

4条『国の歳出は、公債又は借入金以外の歳入を以って、その財源としなければならない。但し、公共事業費、出資金及び貸付金の財源については、国会の議決を経た金額の範囲内で、公債を発行し又は借入金をなすことができる。』

5条『すべて、公債の発行については、日本銀行にこれを引き受けさせ、又、借入金の借入については、日本銀行からこれを借り入れてはならない。但し、特別の事由がある場合において、国会の議決を経た金額の範囲内では、この限りではない。』

⑨ \_\_\_\_\_ ……国民の資産として使われる、公共事業用の国債

⑩ \_\_\_\_\_ ……歳入不足の補完用国債。基本的には発行禁止。

→毎年、特例法で発行（＝特例国債）

本時の展開 修正版（\*が手を入れた箇所）

過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*生徒が納めている税金</li> <li>*家族が納めている税金</li> <li>・本時に行う税金と財政について関心を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自分たちが納めている税金、知っている税金の名称をあげる。</li> <li>*できれば、その税金の簡単な説明もする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名して答えさせる。</li> <li>*生徒があげた名称をメモ的に板書する。</li> </ul>
展開 (40分)	<p>1. 税金の種類と特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直接税と間接税の意味</li> <li>・直間比率の内訳</li> </ul> <p>2. 歳入と歳出と国債</p> <p>(1) 歳入と歳出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*歳入に占める税収の割合</li> <li>・歳入・歳出をプリントで確認(家計になぞらえる)</li> <li>・歳入に占める税収と国債の割合</li> <li>・歳出における3項目(*社会保障・地域財政の詳細は次回に譲る)</li> </ul> <p>(2) 国債依存度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*前回の国債に関する説明を踏まえて、</li> <li>・国債発行額の推移</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*①間接税, ②直接税, ③所得税をプリントの空欄に記入する。また、それぞれの基本的な違いと、税収全体に占める割合を理解する。</li> <li>*税収と歳入の違いと差額を理解する。</li> <li>*④国債をプリントの歳入の欄に記入する。</li> <li>・歳出において「社会保障とは?」、「歳出の2番目に多いのは何か?」(⑤国債費)という発問に答える。</li> <li>*この財政状況を家計でみるとどういう状況かを考える。</li> </ul> <p>・グラフに意識を集中させ、変化する98年度を境に、その前後の違いをしっかりと読み取る。バブルを境に依存し始めたという</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の反応を見ながら、説明が早くなりすぎないように心がける。</li> <li>*家計のレベルに置き換えて、歳入と本来の収入の差額があることを明確に把握させる。</li> <li>・発問は、複数の生徒に問いかけ、生徒の集中力を保つと共に、考えさせる。</li> <li>*家計でいえば、借金を返済するために、借金をしている状態ということを理解させる。</li> <li>*なぜ、バブルを境に依存度を強めたのかを考えさせたい。</li> <li>*今後の日本の財政について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家財政に占める国債依存度</li> </ul> <p>(3) 国債</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国債依存度の高さゆえの国家財政の危機的状況</li> <li>・財政法と2種類の国債</li> </ul>	<p>ことを知る。また、説明の過程で板書を写す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントの空欄⑥⑦⑧に記入する。</li> <li>・財政法の条文を読む。</li> </ul> <p>⑨建設国債, ⑩赤字国債を記入する。</p>	<p>考えさせたい。</p> <p>*国債のために歳入と歳出が膨らんでいる。この政治的判断をどうみるかという点で意見交換ができる雰囲気を作る。</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日のポイントの確認</li> <li>・自分たちの税金の使われ方と、国債依存度を通じて財政への関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を通して、わからないことがあれば質問をする。</li> </ul> <p>*財政を巡る自分の意見を用紙に書いて提出する。</p>	<p>*まとめる際に、他国の国家財政と比較して、日本が特殊な状況にあることを伝えたい。</p>

## 2. 「現代社会」学習指導案

次に検討対象とする学習指導案は、資料2「公民科『現代社会』学習指導案」である。

### 資料2 「公民科『現代社会』学習指導案」

#### 公民科（現代社会）学習指導案

△△県立△△△高等学校  
 指導教諭 ○○ ○  
 授業担当 \*\*\* \*\*

1. 日時 平成17年6月16日 木曜日 1限
2. 指導学級 15HR 在籍42名
3. 使用教科書 現代社会（東京書籍）フォーラム現代社会2005（とうほう）
4. 小単元 変化する日本経済
5. 小単元の目標 第二次世界大戦後のGHQによる経済の民主化、1950年代半ばに迎えた高度経済成長期、経済大国となった日本の産業構造の転換、経済のバブル化とバブル崩壊後の日本経済、及び現在の日本経済状況についての理解を深める。さらに、日々変化している経済が私たちに身近なものであると認識する。
6. 指導計画 6時間
  - (1) 高度経済成長と産業構造の転換・・・1時間
  - (2) 経済のバブル化とその崩壊・・・2時間・・・本時1/2
  - (3) 日本の財政問題・・・・・・・・・・1時間
  - (4) 金融の自由化と国際化・・・・・・・・1時間
  - (5) 中小企業と農業・・・・・・・・・・1時間
7. 本時の目標 前回の授業のグループワークを通して、企業の経営戦略として多くの企業が海外進出を行っていることを学習した。本時では、海外進出と為替変動の関連性、ブラザ合意による円高がもたらした日本経済への影響と金融政策を中心に、経済のバブル化と崩壊後の日本経済の様子を理解する。

8. 指導過程

過程	教師の指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の授業のグループワーク・ユニクロの事例を振り返る。</li> <li>・ 為替とは何かを説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の授業で使用したプリントを見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外進出，現地生産の現状を確認させる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 為替の変動が経済に与える影響を，用意したプリントを使用し板書しながら説明する。</li> <li>・ 為替とは</li> <li>・ なぜ変動するのか</li> <li>・ 円高・円安の影響</li> </ul> <p>・ 教科書 92 ページ，149 ページのグラフも参考にする。</p> <p>&lt;プラザ合意&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 背景・目的・経過から，プラザ合意がこれまでの日本経済を変えたということの内容と，プラザ合意によって日本の企業や経済がどう変化したのか説明する（円高の影響は）。</li> <li>・ もう一度，教科書 149 ページのグラフを見させる。</li> <li>・ ここでグループワークを行う。日本企業と日本政府の2つに分け，7人1班で，どちらかの立場で円高（プラザ合意）への対応を考え，答えてもらう。</li> </ul> <p>&lt;経済のバブル化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公定歩合とは何か。</li> <li>・ フォーラム 119 ページ4のグラフで景気動向と公定歩合の関係を知らせる。</li> <li>・ 円高不況から，公定歩合を下げたことによって引き起こった経済のバブル化について説明する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融政策</li> <li>・ 財テク</li> </ul> </li> </ul> <p>&lt;バブル崩壊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なぜ公定歩合を上げ，地価・株価が暴落し，バブル崩壊となったのか，その経緯を説明し，崩壊となった要因を黒板に箇条書きしながらまとめる。</li> <li>・ 崩壊後の日本経済             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不良債権</li> <li>・ 貸し渋り</li> <li>・ デフレスパイラル</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明を聞きながらプリントの空欄箇所を記入していく。</li> <li>・ 教科書のグラフに注目する。</li> <li>・ 以後もプリントの空欄箇所を埋めていく作業をする。</li> <li>・ 教科書のグラフに注目する。</li> <li>・ 班になり，問題について相談し合い，何をすべきかを考える。</li> <li>・ プリントの横に簡潔にメモをとる。</li> <li>・ フォーラムのグラフに注目する。</li> <li>・ 公定歩合の説明のときにとったメモを参考にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「為替の変動は経済を変える」と強調しておく。</li> <li>・ 日本が輸出依存国であることも伝える。</li> <li>・ 空欄以外にも必要であると思った所はメモをするように注意を促す。</li> <li>・ 92 ページは「海外生産比率」，149 ページは「変動為替相場制」というところに注意する。</li> <li>・ プラザ合意の特徴的な為替の変動「人為的に変動させた」ということに注意する。</li> <li>・ 今度は1985年から急激な円高になっていることを確認する</li> <li>・ どんな小さなことでも良いので，真剣に考えてもらう。</li> <li>・ 公定歩合上げ下げによる経済効果を板書する</li> <li>・ 公定歩合が景気をコントロールすること。</li> <li>・ 土地の神話で地価が高かったことをイメージさせる。</li> <li>・ 時間を掛けず適切に説明していきたい。</li> <li>・ デフレスパイラルに関してフォーラム 140 ページ参照</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バブル経済を経てもなお，今日の私たちに残された課題はあまりにも大きい，グループワークでやった通り，企業経営のあり方次第でも経済は良くなるのだと投げかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度，グループワークのプリントを見る。</li> </ul>	

<p>現代社会プリント <span style="float: right;">2005.6.16</span></p> <p>円高・円安における輸出・輸入</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>車 1 台 日本円で 200 万円 をアメリカに 輸出</p> </div> <p>☆円高 (円の価値が高い) = ドル安</p> <p>1 ドル 100 円 → 1 ドル 50 円</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>2 万ドル</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;">  <p>4 万ドル</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまで 2 万ドルで買っていたものが、 4 万ドル払わなければ買えない。 → 買わなくなる。</p> <p style="text-align: right;">(アメリカ)</p> </div> <p>☆円高 (円の価値が高い) = ドル高</p> <p>1 ドル 100 円 → 1 ドル 200 円</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>2 万ドル</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;">  <p>1 万ドル</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまで 2 万ドルで買っていたものが、 1 万ドル払えば買うことができる。 → 買うようになる。</p> <p style="text-align: right;">(アメリカ)</p> </div>	<p>現代社会 <span style="float: right;">2005.6.16</span></p> <p>プラザ合意・・・為替レートに関する合意 (1985.9.22)</p> <p>&lt;背景&gt; 1980 年代前半「円安 (ドル高) 日本からの輸出拡大」アメリカ→景気の後退 (アメリカ) レーガン大統領 レーガノミックス「強いアメリカ・強いドル」を目指した</p> <p>(アメリカ) 「_____」 (日本) 「対米貿易収支黒字」</p> <p>(アメリカ) 「景気の低迷は日本の貿易黒字にある」日本政府に主張</p> <p>&lt;目的&gt; G5 (日・米・英・仏・独)・・・中央銀行総裁会議 国際社会・国際協調における 「アメリカの対日貿易収支の_____と日本の内需拡大による_____」</p> <p>&lt;経過&gt; 「_____」 協調介入・・・各国総裁による為替相場のコントロール 1985 年 1 ドル 235 円 (1 日で 20 円下落) 1986 年 1 ドル 150 円台</p> <p>急速な円高 → _____</p> <p>企業の海外進出と現地生産 → _____</p> <p><u>グループワーク</u> &lt;日本企業・日本政府の対応&gt;</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%; border-bottom: 1px solid black;">企業</td> <td style="width: 30%; border-bottom: 1px solid black;">政府</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">.</td> </tr> </table>	企業	政府	.	.	.	.	.	.
企業	政府								
.	.								
.	.								
.	.								
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>牛肉 1 トン 米ドルで 5 万ドル を日本に輸入</p> </div> <p>☆円高</p> <p>1 ドル 100 円 → 1 ドル 50 円</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>500 万円</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;">  <p>250 万円</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまで 500 万円を買っていたものが、 250 万円払えば買うことができる。 → 買うようになる。</p> <p style="text-align: right;">(アメリカ)</p> </div> <p>☆円高</p> <p>1 ドル 100 円 → 1 ドル 200 円</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>500 万円</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="text-align: center;">  <p>1000 万円</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまで 500 万円を買っていたものが、 1000 万円払わなければ買えない。 → 買わなくなる。</p> <p style="text-align: right;">(日本)</p> </div> <p>円高の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出に _____ → 輸入に _____</li> <li>・海外進出・ _____ → リストラ・不労者の増加</li> <li>・国内の産業規模の縮小 → 国内の _____</li> <li>・安い輸入品に合わせて日本製品も安くする → 国内の物価が _____</li> </ul> <p style="text-align: right;">→ _____</p> <p>円安の影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入に _____ → 輸出に _____</li> <li>・輸入製品が高くなる → 国内の物価が _____</li> </ul>	<p>☆ 経済のバブル化・・・(日本政府) 国内を潤すための金融政策 ・ _____ (中央銀行が金融機関に貸し出す際の利子率) の _____ (1987 年) % → %</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低金利 → 資金調達しやす</li> <li>・ 内需拡大             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共事業投資</li> <li>・ 住宅および都市開発事業の促進</li> </ul> </li> <li>→ 通貨量の増大・金融緩和</li> </ul> <p>↓</p> <p>銀行にお金がある → _____ に融資 → _____ に融資 → _____</p> <p>不動産バブル (「土地の神話」 23 区の地価でアメリカ全土が買えるほど)</p> <p>☆ バブル崩壊</p> <p>不動産バブルの暴走 → 公定歩合の _____ (1989 年) → %</p> <p>大蔵省 (1990.3) 銀行に「 _____ 」 (金融引き締め) 土地供給者の増大 株価 ピーク時 38,915 円 → 2 万円前後</p> <p>↓</p> <p>バブルの崩壊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ _____</li> <li>・ _____</li> <li>・ _____</li> </ul> <p>↓</p> <p>不良債権の増大・貸し渋り・デフレスパイラル</p>								



指導過程 修正版（\*が手を入れた箇所）

過程	教師の指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の授業のグループワーク・ユニクロの事例</li> <li>・ 為替とは何か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の授業で使用したプリントを見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外進出、現地生産の現状を確認させる。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 為替の変動が経済に与える影響。（プリント使用）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 為替とは</li> <li>・ なぜ変動するのか</li> <li>・ 円高・円安の影響</li> </ul> </li> <li>＜ブラザ合意＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブラザ合意の背景・目的・経過</li> <li>・ ブラザ合意による日本企業や経済の変化（円高の影響）</li> <li>*教科書 92 ページ，149 ページのグラフ</li> </ul> </li> <li>・ グループワーク</li> <li>＜経済のバブル化＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公定歩合とは何か。</li> <li>*バブルを象徴する写真や資料</li> <li>・ 景気動向と公定歩合の関係（フォーラム 119 ページ 4 のグラフ）</li> <li>・ 経済のバブル化                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融政策</li> <li>・ 財テク</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>＜バブル崩壊＞                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公定歩合を上げた理由，</li> <li>・ 結果としての地価・株価の暴落</li> <li>・ バブル崩壊の経緯と要因</li> <li>・ 崩壊後の日本経済                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不良債権</li> <li>・ 貸し渋り</li> <li>・ デフレスパイラル</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*プリントに記入しながら，円高・円安によって，輸出・輸入に与える影響を具体的な金額で把握する。</li> <li>・ 以後もプリントの空欄箇所を埋めていく作業をする。</li> <li>*教科書のグラフから，ブラザ合意前後の変化を読み取る。</li> <li>*7人1班で，日本企業と日本政府の2つに分け，どちらかの立場で円高（ブラザ合意）への対応を考え，答える。</li> <li>・ プリントの横に簡潔にメモをとる。</li> <li>・ フォーラムのグラフに注目する。</li> <li>*班ごとに当時の政府だったら，どのような判断をしたかを考えて，発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「為替の変動は経済を変える」と強調。</li> <li>・ 日本が輸出依存国であることも伝える。</li> <li>・ 空欄以外にも必要事項はメモするように。</li> <li>・ ブラザ合意の特徴的な為替の変動「人為的に変動させた」ということに注意する。</li> <li>*92 ページは「海外生産比率」，149 ページは「変動為替相場制」と，急激な円高に注意する。</li> <li>・ どんな小さなことでも良いので，真剣に考えてもらう。</li> <li>・ 公定歩合上げ下げによる経済効果を板書する。</li> <li>・ 公定歩合が景気をコントロールすること。</li> <li>*バブル化が円高不況から，公定歩合を下げたことによって引き起こされたことを説明する。</li> <li>*土地の神話で地価が高かった例を挙げる。（写真や資料）</li> <li>*班ごとの意見をコンパクトに発表する。</li> <li>・ デフレスパイラルに関してフォーラム 140 ページ参照</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バブル経済を経てもなお，今日の私たちに残された課題はあまりにも大きい，グループワークでやった通り，企業経営のあり方次第でも経済は良くなるのだと投げかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 再度，グループワークのプリントを見る。</li> </ul>	

### 3. 「経済・政治」学習指導案について

実習生の作成した学習指導案は、高校生が日常生活のなかでほとんど関心を抱いていないであろう「税金と国家財政」の問題を、具体的な金額や割合、基本的な概念の丁寧な説明によって、わかりやすく構成している。

まず、税金の種類を説明し、その内訳の比率を紹介する。その税金比率が歳入に占める割合を帯グラフで示すことによって、無理なく国債費収入の大きさが飲み込める。

そして、国債の発行金額と依存度がどのように変化してきたのかを折れ線グラフと棒グラフで的確に示す。そして、これが生徒たち自身とどう関わるのかを考える方向で展開している。

50分という時間のなかで、ポイントを押さえながら基礎的情報をきちんと伝える授業構成になっている。書き込みのできるプリントも有効に使われている。

本時の題材を、生徒がより身近な問題として捉えるために「生徒の学習活動」内容としてアドバイスしたものが、「本時の展開 修正版」である。

「導入」についてみると、本時の指導内容に関心を持たせる意図として、自分たちの納めている税金名、家族の納めている税金名を、生徒が発言するようにし、生徒1人が1年間に納めている消費税額の例も簡単に出しておく、その後の金額を見る伏線として役立つ。

「展開」では、国家財政の歳入、歳出を見る際に、家計に置き換えた説明が加わると、生徒は比較しながら理解できるのではないだろうか。特に、「国債費」について、これを家計にたとえると、「借金」に当たるということをストレートに理解できる。借金を返済するために、借金を重ねている家計と、日本の国家財政の現状を重ねて理解できる。

「まとめ」では、本時のポイントを整理すると同時に、この財政状況をどう見るかという点

について、生徒たちの考えを発言できる場を設けたい。このようなテーマでは、意見交流が大切になるだろう。

### 4. 「現代社会」学習指導案について

実習生の作成した学習指導案では、現在の経済状況にも色濃く影響を与えているバブル経済を授業の題材とし、その経済的状況の特質を理解することを目標としている。生徒の経験したことのないあの時期の始まりと展開と終焉を的確に説明している。また、用意したプリントも為替の問題について例示したものや、歴史的展開のポイントをわかりやすく書き込み式にしたもので、授業の理解を十分助けるものとなっている。

本時の題材を、生徒がより身近な問題として捉えるために、「生徒の学習活動」内容としてアドバイスしたものが、「指導過程 修正版」である。

「展開」では生徒が為替の変動による輸出入の変動を見ることになるので、その意味を把握できることをポイントとして押さえる。また、教科書のグラフの読み取り、グループでの話し合いなど、変化のある「生徒の学習活動」を構成しているので、〈プラザ合意〉についての話し合いを、〈バブル崩壊〉についても生かし、自分たちが当時の政府だったら、どのような判断をするのかを、班ごとに話して発表できると、発想が広がるのではないだろうか。

#### まとめ

本学の教職課程では「教科教育法」や「教職論」の授業で模擬授業をし、学習指導案を提出している。また、教育実習校での研究授業の学習指導案も提出している。今後、このような形で蓄積することが、教職課程の財産にもなるだろう。

指導案の入力に当たって、情報科学科・佐藤亜希子さんの協力を得た。感謝したい。